

お わ り に

群馬大学共同教育学部附属小学校 副校長 木口 卓哉

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和になって初めての年度末・年度始めが、私たちがこれまでに経験したことのないものとなり、様々な対応に追われることとなりました。

そのような状況の中、令和2年度の公開研究会を中止と判断せざるを得なかったことは、誠に遺憾であります。新型コロナウイルス感染症が一刻も早く終息することを願っております。

さて、本校では、今後も一層激しく変化していくであろう社会を、自分たちの力で生き抜いていける子どもを育てていくために、研究主題を「未来を拓く子どもの育成」とし、平成28年度から研究に取り組んで参りました。

1年次においては、「未来を拓く子ども」を育成するために、各教科等で身に付けるべき資質・能力を明らかにするとともに、「子どもが繰り返し問い続けること」を視点として、問題解決的な学習過程の見直しを行いました。また、2年次においては、子どもたちに「学びの自覚」を促す学習指導の工夫について、具体化しました。さらに、3年次においては、問題解決への熱意・探究心をもって自らの考えを表出している子どもの姿を「躍動」と定義し、躍動を促す学習指導の工夫・改善に取り組みました。そして、本年次においては、身に付けた資質・能力を、社会や生活の中にある問題の解決に生かせるよう、「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿を求めて、学習指導の工夫・改善に取り組んで参りました。

子どもたちが、多様で複雑な問題にも対応できる転移可能な資質・能力を獲得できるようにするためには、どのような学びを創る必要があるのか。また、学ぶ意義や価値を実感し、次に生かそうとする態度を培うためには、何を、どのように振り返ることが有効なのかといったことについて、日々実践を重ね、真剣に検討してきました。そこには、子どもたちの資質・能力を伸ばしたいという教師の強い願いとともに、子どもたちが熱意・探究心を高め、考えを深めていくためにはどうしていけばよいのかと悩み、工夫を重ね、よりよい授業を追求する教師の姿、ひたむきに授業改善に取り組む姿がありました。さらに、これらの授業改善に加えて、新学習指導要領の全面実施に伴って始まるプログラミング教育の実践についても模索してきました。プログラミング教育については、これまでの実践を事例集としてまとめ、発表することといたしました。実際の授業として、子どもたちの姿とともにご覧いただくことはできませんが、本研究紀要とともにご覧いただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

授業改善に、終わりはありません。本校職員は、これからも、子どもたちの豊かな成長を願い、「未来を拓く子ども」を育成できるよう、よりよい授業を目指して全力で取り組んでいく所存です。

結びに、本校の研究を進めるにあたり、群馬県教育委員会をはじめとする関係機関の皆様方、研究協力者である群馬大学共同教育学部の先生方には、熱心なご指導と丁寧なご助言をいただきました。この場を借りて深くお礼を申し上げます。今後とも、本校の取組が、県内外の多くの方々の参考にしていただけるものとなるよう、引き続きご指導をお願い申し上げます。